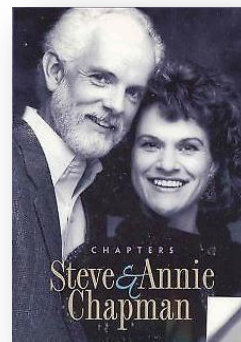


## 今月のみことば 2019年6月

「私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死なれたことによって、神は私たちに対するご自分の愛を明らかにしておられます。」 (ローマ人への手紙5章8節)

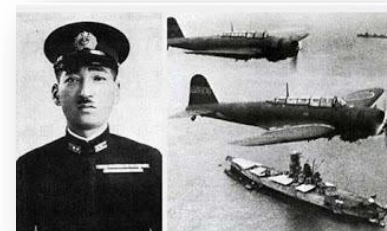
### 赦しの恵み

30年ほど前に聞き、今なお心に残る歌がある。アメリカのスティーブ・チャプマン夫妻による「二人の子ども(Two Children)」という、実話に基づいた歌である。歌詞を以下に和訳してみた。



二人の子どもがいた。兄と妹。飲んだくれの父親のもとに生まれた。  
二人はしっかり覚えている。幼い頃の悲しみの日々を。  
何度も何度も、父親に痛めつけられたことを。  
ところが、二人はその後、まったく違った人生を歩んだ。  
まるで昼が夜と違うほどに。  
兄はオハイオ州で平和に暮らしているのに、妹は憎しみでいっぱいだった。死ぬその日まで。  
二人はどうしてこんなに違ってしまったのだろう、と不思議だった。  
ふたりとも憎しみを抱いて当然だった。  
けれど、一人はなぜこんなにも優しい人となり、平和に暮らしているのに  
もうひとりとはそうではなかったのか、と。  
ついこの間のことだった。その答えがはっきりわかった。  
たまたま、兄の方が父親の墓の前にいる姿を見かけたのだ。  
墓に花束を置き、彼はこう言った  
「父さん、長い年月、僕たちは酷い扱いを受けたね。けれど、改めて父さんを赦すよ」と。  
これでわかった。なぜ二人の人生がこんなにも違ってしまったのか。  
なぜ、二人の心が昼と夜ほどに違ってしまったのか。  
兄はオハイオ州で平和に暮らしているのに、妹は死ぬその日まで憎しみでいっぱいだったのか。  
憎しみが、彼女のいのちを縮めてしまったのだ、と。

第二次世界大戦が終わったヨーロッパにも同じ問題が重くのしかかっていた。財産も、家族も、人間の尊厳も容赦なく奪っていった、ナチスドイツに対する消えない憎しみである。それは抱いて当然の憎しみであったが、やがてそれは人々の心のみか、体の健康までも蝕んでいったのである。



しかし、神の恵みによって、人にはできないことができる、という奇跡が起きることも事実である。「父よ、彼らをお赦しください。彼らは、自分が何をしているのかが分かっていないのです」(ルカ 23:34)、というキリストのことばによって、自分自身が神に赦される経験をした淵田美津雄(真珠湾攻撃時の隊長)かつての敵国、アメリカに行き、普通では考えられない和解を果たした。

赦すということは何と難しいことであろうか。しかし、神に敵対していた私たちを神が愛し、和解の手を差し伸べてくださったのが十字架であるとする、私たちの世界観は一変するのではないだろうか。